

5 教員組織の状況

<スポーツ・健康科学部 看護学科>

(1) - ① 担当教員表

【認可時】

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 担当授業科目名
専	教授	杉森 裕樹 <平成30年4月> 基礎ゼミナール 疾病・治療学Ⅲ (慢性期・総論/全身疾患) 公衆衛生学 チーム医療論 ※ 地域健康支援論 地域包括ケア概論 ※ 地域包括ケア方法論 ※	専	教授	杉森 裕樹 <平成30年4月> 基礎ゼミナール 疾病・治療学Ⅲ (慢性期・総論/全身疾患) 公衆衛生学 チーム医療論 ※ 地域健康支援論 地域包括ケア概論 ※ 地域包括ケア方法論 ※
専	教授	豊嶋 三枝子 <平成30年4月> 基礎ゼミナール 基礎看護学概論 看護方法論 ※ 看護理論 看護倫理 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ 看護管理学概論 医療安全論	専	教授	豊嶋 三枝子 <平成30年4月> 基礎ゼミナール 基礎看護学概論 看護方法論 ※ 看護理論 看護倫理 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ 看護管理学概論 医療安全論
専	教授	村松 由紀 <平成30年4月> 基礎ゼミナール コモンスキル ※ 生活支援技術論Ⅰ 生活支援技術論Ⅱ 医療支援技術論Ⅰ 医療支援技術論Ⅱ 看護方法論 ※ 看護コミュニケーション論 ※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 在宅看護学方法論 ※ 地域包括ケア概論 ※ 地域包括ケア方法論 ※ 地域包括ケア演習 地域包括ケア実習 統合実習 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ	専	教授	村松 由紀 <平成30年4月> 基礎ゼミナール コモンスキル ※ 生活支援技術論Ⅰ 生活支援技術論Ⅱ 医療支援技術論Ⅰ 医療支援技術論Ⅱ 看護方法論 ※ 看護コミュニケーション論 ※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 在宅看護学方法論 ※ 地域包括ケア概論 ※ 地域包括ケア方法論 ※ 地域包括ケア演習 地域包括ケア実習 統合実習 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ
専	教授	糸井 裕子 <平成30年4月> 基礎ゼミナール コモンスキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 成人看護学概論 成人看護学方法論Ⅱ (慢性期) ※ 成人看護学演習 成人看護学実習Ⅱ (慢性期) 統合実習 緩和ケア論 ※ がん看護 ※ 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ	専	教授	糸井 裕子 <平成30年4月> 基礎ゼミナール コモンスキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 成人看護学概論 成人看護学方法論Ⅱ (慢性期) ※ 成人看護学演習 成人看護学実習Ⅱ (慢性期) 統合実習 緩和ケア論 ※ がん看護 ※ 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ
専	教授	水野 (今井) 千奈津 (45) <平成32年4月> 基礎ゼミナール コモンスキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 母性看護学概論 母性看護学方法論 ※ 母性看護学演習 リプロダクティブヘルス看護学 ※ 母性看護学実習 統合実習 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ	専	教授	水野 (今井) 千奈津 (46) <平成30年4月> 基礎ゼミナール コモンスキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 母性看護学概論 母性看護学方法論 ※ 母性看護学演習 リプロダクティブヘルス看護学 ※ 母性看護学実習 統合実習 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ
兼任	講師	水野 (今井) 千奈津 <平成31年4月> 看護コミュニケーション論 ※ 母性看護学概論 母性看護学方法論 ※ リプロダクティブヘルス看護学 ※			

【認可時】

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
専	教授	森田 恵子 <平成31年4月>
		基礎ゼミナール チーム医療論 ※ 老年看護学概論 老年看護学方法論Ⅰ (医療支援看護) 老年看護学方法論Ⅱ (生活支援看護) ※ 老年看護学演習 リプロダクティブヘルス看護学 ※ 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ
専	教授	榊澤 一之 <平成30年4月>
		基礎ゼミナール 情報処理 保健医療統計学 医療情報学 看護研究Ⅰ
専	准教授	王 麗華 <平成30年4月>
		基礎ゼミナール コモンスキル ※ 東洋医学概論(漢方) 看護コミュニケーション論 ※ 地域看護学概論 地域健康支援論 在宅看護学概論 在宅看護学方法論 ※ 在宅看護学演習 地域包括ケア概論 ※ 地域包括ケア方法論 ※ 地域包括ケア演習 老年看護学実習Ⅰ 在宅看護学実習 地域包括ケア実習 統合実習 クリティカルケア論 ※ 東洋文化と看護 看護研究Ⅱ 国際看護学
専	准教授	長田 泉 <平成31年4月>
		基礎ゼミナール コモンスキル ※ チーム医療論 ※ 看護コミュニケーション論 ※ 小児看護学概論 小児看護学方法論 小児看護学演習 リプロダクティブヘルス看護学 ※ 地域包括ケア演習 小児看護学実習 統合実習 クリティカルケア論 ※ 緩和ケア論 ※ 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ 家族看護学 ※
専	准教授	須佐 公子 (53) <平成30年4月>
		基礎ゼミナール コモンスキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 老年看護学方法論Ⅰ (医療支援看護) 老年看護学方法論Ⅱ (生活支援看護) ※ 老年看護学演習 地域包括ケア演習 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 統合実習 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
専	教授	森田 恵子 <平成31年4月>
		基礎ゼミナール チーム医療論 ※ 老年看護学概論 老年看護学方法論Ⅰ (医療支援看護) 老年看護学方法論Ⅱ (生活支援看護) ※ 老年看護学演習 リプロダクティブヘルス看護学 ※ 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ
専	教授	榊澤 一之 <平成30年4月>
		基礎ゼミナール 情報処理 保健医療統計学 医療情報学 看護研究Ⅰ
専	准教授	王 麗華 <平成30年4月>
		基礎ゼミナール コモンスキル ※ 東洋医学概論(漢方) 看護コミュニケーション論 ※ 地域看護学概論 地域健康支援論 在宅看護学概論 在宅看護学方法論 ※ 在宅看護学演習 地域包括ケア概論 ※ 地域包括ケア方法論 ※ 地域包括ケア演習 老年看護学実習Ⅰ 在宅看護学実習 地域包括ケア実習 統合実習 クリティカルケア論 ※ 東洋文化と看護 看護研究Ⅱ 国際看護学
専	准教授	長田 泉 <平成31年4月>
		基礎ゼミナール コモンスキル ※ チーム医療論 ※ 看護コミュニケーション論 ※ 小児看護学概論 小児看護学方法論 小児看護学演習 リプロダクティブヘルス看護学 ※ 地域包括ケア演習 小児看護学実習 統合実習 クリティカルケア論 ※ 緩和ケア論 ※ 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ 家族看護学 ※
専	准教授	須佐 公子 (54) <平成30年4月>
		基礎ゼミナール コモンスキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 老年看護学方法論Ⅰ (医療支援看護) 老年看護学方法論Ⅱ (生活支援看護) ※ 老年看護学演習 地域包括ケア演習 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 統合実習 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ 高齢看護学実習Ⅰ 生活支援技術論Ⅰ 生活支援技術論Ⅱ 看護方法論

【認可時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
専	准教授	草刈 由美子 <平成30年4月>
		基礎ゼミナール コモンスキル ※ 生活支援技術論Ⅰ 生活支援技術論Ⅱ 医療支援技術論Ⅰ 医療支援技術論Ⅱ 看護方法論 ※ 看護コミュニケーション論 ※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 統合実習 看護研究Ⅱ 家族看護学 ※
専	准教授	北田 志郎 <平成30年4月>
		基礎ゼミナール 疾病・治療学Ⅳ(終末期・緩和医療) 疾病・治療学Ⅵ(精神医療) 病態論 東洋医学概論(漢方) 精神看護学概論 ※ 精神看護学方法論 緩和ケア論 ※ 東洋文化と看護
専	准教授	本山(堀内) 仁美 <平成30年4月>
		基礎ゼミナール コモンスキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 成人看護学方法論Ⅰ(急性期) ※ 成人看護学演習 成人看護学実習Ⅰ(急性期) 統合実習 クリティカルケア論 ※ がん看護 ※ 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ 災害看護学
専	講師	甲賀 ひとみ <平成30年4月>
		基礎ゼミナール コモンスキル ※ チーム医療論 ※ 看護コミュニケーション論 ※ 精神看護学概論 ※ 精神看護学方法論 精神看護学演習 地域包括ケア演習 精神看護学実習 地域包括ケア実習 統合実習 看護研究Ⅱ 災害看護学
専	講師	渡部 富栄 <平成30年4月>
		基礎ゼミナール コモンスキル ※ 英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ 医療英語 英語ゼミナール 看護コミュニケーション論 ※ 国際看護学
専	講師	鈴木 明美 <平成30年4月>
		基礎ゼミナール コモンスキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 成人看護学方法論Ⅱ(慢性期) ※ 成人看護学演習 成人看護学実習Ⅱ(慢性期) 統合実習 緩和ケア論 ※ がん看護 ※ 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
専	准教授	草刈 由美子 <平成30年4月>
		基礎ゼミナール コモンスキル ※ 生活支援技術論Ⅰ 生活支援技術論Ⅱ 医療支援技術論Ⅰ 医療支援技術論Ⅱ 看護方法論 ※ 看護コミュニケーション論 ※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 統合実習 看護研究Ⅱ 家族看護学 ※
専	准教授	北田 志郎 <平成30年4月>
		基礎ゼミナール 疾病・治療学Ⅳ(終末期・緩和医療) 疾病・治療学Ⅵ(精神医療) 病態論 東洋医学概論(漢方) 精神看護学概論 ※ 精神看護学方法論 緩和ケア論 ※ 東洋文化と看護
専	准教授	本山(堀内) 仁美 <平成30年4月>
		基礎ゼミナール コモンスキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 成人看護学方法論Ⅰ(急性期) ※ 成人看護学演習 成人看護学実習Ⅰ(急性期) 統合実習 クリティカルケア論 ※ がん看護 ※ 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ 災害看護学
専	講師	村田(甲賀)ひとみ <平成30年4月>
		基礎ゼミナール コモンスキル ※ チーム医療論 ※ 看護コミュニケーション論 ※ 精神看護学概論 ※ 精神看護学方法論 精神看護学演習 地域包括ケア演習 精神看護学実習 地域包括ケア実習 統合実習 看護研究Ⅱ 災害看護学
専	講師	渡部 富栄 <平成30年4月>
		基礎ゼミナール コモンスキル ※ 英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ 医療英語 英語ゼミナール 看護コミュニケーション論 ※ 国際看護学
専	講師	鈴木 明美 <平成30年4月>
		基礎ゼミナール コモンスキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 成人看護学方法論Ⅱ(慢性期) ※ 成人看護学演習 成人看護学実習Ⅱ(慢性期) 統合実習 緩和ケア論 ※ がん看護 ※ 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ

【認可時】

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	講師	伊藤 直子 <平成31年4月>
		基礎ゼミナール 共通スキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 地域健康支援論 在宅看護学方法論 ※ 在宅看護学演習 地域包括ケア方法論 ※ 老年看護学実習Ⅰ 在宅看護学実習 統合実習 看護研究Ⅱ
専	講師	荒井 洋子 <平成31年4月>
		基礎ゼミナール 共通スキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 母性看護学方法論 母性看護学演習 母性看護学実習 統合実習 クリティカルケア論 ※ 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ
専	講師	奥平 寛奈 <平成30年4月>
		基礎ゼミナール 共通スキル ※ 生活支援技術論Ⅰ 生活支援技術論Ⅱ 医療支援技術論Ⅰ 医療支援技術論Ⅱ 看護方法論 ※ 看護コミュニケーション論 ※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 地域包括ケア実習 統合実習 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ
専	講師	川島 雅子 <平成31年4月>
		基礎ゼミナール 共通スキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 小児看護学方法論 小児看護学演習 小児看護学実習 統合実習 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ
専	助教	鈴木 秀樹 <平成30年4月>
		基礎ゼミナール 共通スキル ※ 生活支援技術論Ⅰ 生活支援技術論Ⅱ 医療支援技術論Ⅰ 医療支援技術論Ⅱ 看護方法論 ※ 看護コミュニケーション論 ※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 地域包括ケア実習 統合実習 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ
専	助教	野崎 百合子 <平成31年4月>
		基礎ゼミナール 共通スキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 母性看護学方法論 母性看護学演習 母性看護学実習 統合実習 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	講師	伊藤 直子 <平成31年4月>
		基礎ゼミナール 共通スキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 地域健康支援論 在宅看護学方法論 ※ 在宅看護学演習 地域包括ケア方法論 ※ 老年看護学実習Ⅰ 在宅看護学実習 統合実習 看護研究Ⅱ
専	講師	荒井 洋子 <平成31年4月>
		基礎ゼミナール 共通スキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 母性看護学方法論 母性看護学演習 母性看護学実習 統合実習 クリティカルケア論 ※ 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ
専	講師	奥平 寛奈 <平成30年4月>
		基礎ゼミナール 共通スキル ※ 生活支援技術論Ⅰ 生活支援技術論Ⅱ 医療支援技術論Ⅰ 医療支援技術論Ⅱ 看護方法論 ※ 看護コミュニケーション論 ※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 地域包括ケア実習 統合実習 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ
専	講師	川島 雅子 <平成31年4月>
		基礎ゼミナール 共通スキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 小児看護学方法論 小児看護学演習 小児看護学実習 統合実習 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ
専	助教	鈴木 秀樹 <平成30年4月>
		基礎ゼミナール 共通スキル ※ 生活支援技術論Ⅰ 生活支援技術論Ⅱ 医療支援技術論Ⅰ 医療支援技術論Ⅱ 看護方法論 ※ 看護コミュニケーション論 ※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 地域包括ケア実習 統合実習 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ
専	助教	野崎 百合子 <平成31年4月>
		基礎ゼミナール 共通スキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 母性看護学方法論 母性看護学演習 母性看護学実習 統合実習 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ

【認可時】

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
専	助教	山口 浩美 <平成30年4月>
		基礎ゼミナール コモンスキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 成人看護学方法論Ⅱ (慢性期) ※ 成人看護学演習 成人看護学実習Ⅰ (急性期) 老年看護学実習Ⅰ 地域包括ケア実習 統合実習 看護実践能力強化演習
専	助教	黒田 美香 <平成30年4月>
		基礎ゼミナール コモンスキル ※ 生活支援技術論Ⅰ 生活支援技術論Ⅱ 医療支援技術論Ⅰ 医療支援技術論Ⅱ 看護方法論 ※ 看護コミュニケーション論 ※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 地域包括ケア実習 統合実習 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ
専	助教	滝沢 隆 <平成30年4月>
		基礎ゼミナール コモンスキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 成人看護学方法論Ⅰ (急性期) ※ 成人看護学演習 成人看護学実習Ⅰ (急性期) 老年看護学実習Ⅰ 地域包括ケア実習 統合実習 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ 災害看護学
専	助教	野崎 裕之 <平成30年4月>
		基礎ゼミナール コモンスキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 基礎看護学実習Ⅱ 精神看護学方法論 精神看護学演習 精神看護学実習 地域包括ケア実習 統合実習 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ
専	助教	高安 令子 (42) <平成30年4月>
		基礎ゼミナール コモンスキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 基礎看護学実習Ⅱ 在宅看護学方法論 ※ 在宅看護学演習 老年看護学実習Ⅰ 在宅看護学実習 地域包括ケア実習 統合実習 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ
兼任	教授	太田 眞 <平成30年4月>
		救急救命Ⅰ 救急救命Ⅱ スポーツ医学概論
兼任	教授	中島 一敏 <平成30年4月>
		微生物学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
専	助教	山口 浩美 <平成30年4月>
		基礎ゼミナール コモンスキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 成人看護学方法論Ⅱ (慢性期) ※ 成人看護学演習 成人看護学実習Ⅰ (急性期) 老年看護学実習Ⅰ 地域包括ケア実習 統合実習 看護実践能力強化演習
専	助教	黒田 美香 <平成30年4月>
		基礎ゼミナール コモンスキル ※ 生活支援技術論Ⅰ 生活支援技術論Ⅱ 医療支援技術論Ⅰ 医療支援技術論Ⅱ 看護方法論 ※ 看護コミュニケーション論 ※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 地域包括ケア実習 統合実習 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ
専	助教	滝沢 隆 <平成31年4月>
		基礎ゼミナール コモンスキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 成人看護学方法論Ⅰ (急性期) ※ 成人看護学演習 成人看護学実習Ⅰ (急性期) 老年看護学実習Ⅰ 地域包括ケア実習 統合実習 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ 災害看護学
専	助教	野崎 裕之 <平成30年4月>
		基礎ゼミナール コモンスキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 基礎看護学実習Ⅱ 精神看護学方法論 精神看護学演習 精神看護学実習 地域包括ケア実習 統合実習 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ
専	助教	高安 令子 (43) <平成30年4月>
		基礎ゼミナール コモンスキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 基礎看護学実習Ⅱ 在宅看護学方法論 ※ 在宅看護学演習 老年看護学実習Ⅰ 在宅看護学実習 地域包括ケア実習 統合実習 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ
兼任	教授	太田 眞 <平成30年4月>
		救急救命Ⅰ 救急救命Ⅱ スポーツ医学概論
兼任	教授	中島 一敏 <平成30年4月>
		微生物学

【認可時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
兼任	教授	大城 聡 <平成30年4月>
		担当授業科目名 生化学 薬理学
兼任	教授	鈴木 明 <平成31年4月>
		健康科学実践 ※
兼任	教授	琉子 友男 <平成31年4月>
		健康科学実践 ※
兼任	教授	只隈 伸也 <平成30年4月>
		総合体育A 総合体育B 健康科学実践 ※ 健康スポーツ科学A 健康スポーツ科学B
兼任	教授	田中 博史 <平成30年4月>
		総合体育A 総合体育B 野外実習A 野外実習B 健康科学実践 ※
兼任	教授	宮瀬 交二 <平成30年4月>
		郷土論(埼玉学) 考古学A 考古学B
兼任	教授	北澤 恒人 <平成30年4月>
		哲学A 哲学B 倫理学A 倫理学B 社会学A 社会学B
兼任	教授	浦田 健二 <平成30年4月>
		現代科学A 現代科学B 自然科学A 自然科学B
兼任	教授	大杉 由香 <平成30年4月>
		現代社会の諸問題A 現代社会の諸問題B
兼任	教授	大月 実 <平成30年4月>
		言語学A 言語学B
兼任	教授	岡崎 邦彦 <平成30年4月>
		歴史学A 歴史学B
兼任	教授	加瀬 幸喜 <平成30年4月>
		法学A 法学B
兼任	教授	上村 圭介 <平成30年4月>
		言語学A 言語学B 資料・文献読解A 資料・文献読解B
兼任	教授	川本 竜史 <平成30年4月>
		総合体育A 総合体育B
兼任	教授	高尾 謙史 <平成30年4月>
		文学A 文学B

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
兼任	教授	大城 聡 <平成30年4月>
		担当授業科目名 薬理学
兼任	教授	鈴木 明 <平成31年4月>
		健康科学実践 ※
兼任	教授	琉子 友男 <平成31年4月>
		健康科学実践 ※
兼任	教授	只隈 伸也 <平成30年4月>
		総合体育A 総合体育B 健康科学実践 ※ 健康スポーツ科学A 健康スポーツ科学B
兼任	教授	田中 博史 <平成30年4月>
		総合体育A 総合体育B 野外実習A 野外実習B 健康科学実践 ※
兼任	教授	宮瀬 交二 <平成30年4月>
		郷土論(埼玉学)
兼任	教授	北澤 恒人 <平成30年4月>
		倫理学A 倫理学B 社会学A 社会学B
兼任	教授	浦田 健二 <平成30年4月>
		現代科学A 現代科学B 自然科学A 自然科学B
兼任	教授	大杉 由香 <平成30年4月>
		現代社会の諸問題A 現代社会の諸問題B
兼任	教授	大月 実 <平成30年4月>
		言語学A 言語学B
兼任	教授	岡崎 邦彦 <平成30年4月>
		歴史学A 歴史学B
兼任	教授	加瀬 幸喜 <平成30年4月>
		法学A 法学B
兼任	教授	上村 圭介 <平成30年4月>
		言語学A 言語学B 資料・文献読解A 資料・文献読解B
兼任	教授	川本 竜史 <平成30年4月>
		総合体育A 総合体育B
兼任	教授	高尾 謙史 <平成30年4月>

【認可時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	教授	竹島 毅 <平成30年4月> 中国語初級1A 中国語初級1B
兼任	教授	武田 知己 <平成30年4月> 政治学A 政治学B
兼任	教授	田中 達也 <平成30年4月> 地理学A 地理学B 地域・国家・民族の 考察A 地域・国家・民族の 考察B
兼任	教授	千葉 一幹 <平成30年4月> 文学A 文学B 異文化・世界にふれ るA 異文化・世界にふれ るB
兼任	教授	寺田 浩司 <平成30年4月> 生物学A 生物学B 現代科学A 現代科学B 全学共通特殊講義A 全学共通特殊講義B
兼任	教授	内藤 二郎 <平成30年4月> 現代社会の諸問題A 現代社会の諸問題B
兼任	教授	中井 睦美 <平成30年4月> 地学A 地学B 全学共通特殊講義A 全学共通特殊講義B
兼任	教授	中垣 恒太郎 <平成30年4月> 芸術学A 芸術学B 異文化・世界にふれ るA 異文化・世界にふれ るB 自己・人間をみつめ るA 自己・人間をみつめ るB
兼任	教授	中澤 紀子 <平成30年4月> 自己・人間を見つめ るA 自己・人間を見つめ るB
兼任	教授	中野 紀和 <平成30年4月> 文化人類学A 文化人類学B
兼任	教授	中村 正雄 <平成30年4月> 健康スポーツ科学A 健康スポーツ科学B
兼任	教授	水谷 正大 <平成30年4月> 情報科学A 情報科学B
兼任	教授	宮城 修 <平成30年4月> 総合体育A 総合体育B
兼任	教授	武藤 慎一 <平成30年4月> 宗教学A 宗教学B

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	教授	竹島 毅 <平成30年4月> 中国語初級1A 中国語初級1B
兼任	教授	武田 知己 <平成30年4月> 政治学A 政治学B
兼任	教授	田中 達也 <平成30年4月> 地域・国家・民族の 考察A 地域・国家・民族の 考察B
兼任	教授	千葉 一幹 <平成30年4月> 文学A 文学B 異文化・世界にふれ るA 異文化・世界にふれ るB
兼任	教授	寺田 浩司 <平成30年4月> 生物学A 生物学B 現代科学A 現代科学B 全学共通特殊講義A 全学共通特殊講義B
兼任	教授	中井 睦美 <平成30年4月> 地学A 地学B 全学共通特殊講義A 全学共通特殊講義B
兼任	教授	中澤 紀子 <平成30年4月> 自己・人間を見つめ るA 自己・人間を見つめ るB
兼任	教授	中野 紀和 <平成30年4月> 文化人類学A 文化人類学B
兼任	教授	中村 正雄 <平成30年4月> 健康スポーツ科学A 健康スポーツ科学B
兼任	教授	水谷 正大 <平成30年4月> 情報科学A 情報科学B
兼任	教授	宮城 修 <平成30年4月> 総合体育A 総合体育B

【認可時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
兼任	教授	山下 東子
		<平成30年4月> 経済学A 経済学B
兼任	教授	山根 雄一郎
		<平成30年4月> 哲学A 哲学B 倫理学A 倫理学B
兼任	准教授	蕨木 智子
		<平成30年4月> 人間と栄養 チーム医療論 ※ 現代科学A 現代科学B 健康スポーツ科学A 健康スポーツ科学B
兼任	准教授	築瀬 澄乃
		<平成31年4月> 臨床検査学概論
兼任	准教授	宮本 正秀
		<平成30年4月> 英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ
兼任	准教授	池本 今日子
		<平成30年4月> 文化史A 文化史B
兼任	准教授	金澤 妙子
		<平成30年4月> 女性・子ども・老人 への視点A 女性・子ども・老人 への視点B
兼任	准教授	神谷 諭一
		<平成30年4月> 数学A 数学B 自己・人間を見つめるA 自己・人間を見つめるB
兼任	准教授	工藤 保子
		<平成31年4月> 体育実技A 体育実技B
兼任	准教授	小林 春樹
		<平成30年4月> 歴史学A 歴史学B
兼任	准教授	白井 春人
		<平成30年4月> 芸術学A 芸術学B
兼任	准教授	杉田 明宏
		<平成30年4月> 人権・民主主義・平和を 考えるA 人権・民主主義・平和を 考えるB
兼任	准教授	高屋 康彦
		<平成30年4月> 地理学A 地理学B

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
兼任	教授	山下 東子
		<平成30年4月> 経済学A 経済学B
兼任	教授	山根 雄一郎
		<平成30年4月> 哲学A 哲学B 倫理学A 倫理学B
兼任	准教授	蕨木 智子
		<平成30年4月> チーム医療論 ※ 現代科学A 現代科学B 健康スポーツ科学A 健康スポーツ科学B
兼任	准教授	築瀬 澄乃
		<平成31年4月> 臨床検査学概論
兼任	准教授	宮本 正秀
		<平成30年4月> 英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ
兼任	准教授	池本 今日子
		<平成30年4月> 文化史A 文化史B
兼任	准教授	金澤 妙子
		<平成30年4月> 女性・子ども・老人 への視点A 女性・子ども・老人 への視点B
兼任	准教授	藤原 康之
		<平成30年4月> 体育実技A 体育実技B
兼任	准教授	神谷 諭一
		<平成30年4月> 数学A 数学B 自己・人間を見つめるA 自己・人間を見つめるB
兼任	准教授	小林 春樹
		<平成30年4月> 歴史学A 歴史学B
兼任	准教授	白井 春人
		<平成30年4月> 芸術学A 芸術学B
兼任	教授	杉田 明宏
		<平成30年4月> 人権・民主主義・平和を 考えるA 人権・民主主義・平和を 考えるB
兼任	准教授	高屋 康彦
		<平成30年4月> 地理学A 地理学B

【認可時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	准教授	萩原 基裕 <平成30年4月>
		法学A 法学B
兼任	准教授	橋本 みのり <平成30年4月>
		生物学A 生物学B 生態学A 生態学B
兼任	准教授	本間 俊行 <平成30年4月>
		健康スポーツ科学A 健康スポーツ科学B
兼任	准教授	松崎 友世 <平成30年4月>
		心理学A 心理学B
兼任	准教授	村井 信幸 <平成30年4月>
		歴史学A 歴史学B 異文化・世界にふれるA 異文化・世界にふれるB
兼任	准教授	吉永 良正 <平成30年4月>
		論理学A 論理学B
兼任	講師	鹿島 文博 <平成31年4月>
		健康科学実践 ※
兼任	講師	浅沼(川野) 薫奈 <平成30年4月>
		自己・人間を見つめるA 自己・人間を見つめるB
兼任	講師	香川 めい <平成30年4月>
		社会学A 社会学B 教育学A 教育学B
兼任	講師	木村 竜太 <平成30年4月>
		異文化・世界にふれるA 異文化・世界にふれるB
兼任	講師	佐藤 真太郎 <平成30年4月>
		総合体育A 総合体育B
兼任	講師	高田 未里 <平成30年4月>
		心理学A 心理学B 心理学概論A 心理学概論B 産業心理学A 産業心理学B

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	准教授	津曲 真一 <平成30年4月>
		宗教学A 宗教学B 異文化・世界にふれるA 異文化・世界にふれるB 自己・人間を見つめるA 自己・人間を見つめるB
兼任	准教授	野瀬 元子 <平成30年4月>
		現代社会の諸問題A 現代社会の諸問題B
兼任	准教授	萩原 基裕 <平成30年4月>
		法学A 法学B
兼任	准教授	橋本 みのり <平成30年4月>
		生物学A 生物学B 生態学A 生態学B
兼任	准教授	本間 俊行 <平成30年4月>
		健康スポーツ科学A 健康スポーツ科学B
兼任	教授	松崎 友世 <平成30年4月>
		心理学A 心理学B
兼任	准教授	村井 信幸 <平成30年4月>
		歴史学A 歴史学B 異文化・世界にふれるA 異文化・世界にふれるB
兼任	准教授	吉永 良正 <平成30年4月>
		論理学A 論理学B
兼任	講師	鹿島 文博 <平成31年4月>
		健康科学実践 ※
兼任	講師	浅沼(川野) 薫奈 <平成30年4月>
		自己・人間を見つめるA 自己・人間を見つめるB
兼任	講師	香川 めい <平成30年4月>
		社会学A 社会学B 教育学A 教育学B
兼任	講師	木村 竜太 <平成30年4月>
		文学A 文学B 異文化・世界にふれるA 異文化・世界にふれるB
兼任	講師	佐藤 真太郎 <平成30年4月>
		総合体育A 総合体育B
兼任	准教授	高田 未里 <平成30年4月>
		心理学A 心理学B 心理学概論A 心理学概論B 産業心理学A 産業心理学B

【認可時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
兼任	講師	福井(小川) 庸子 <平成30年4月>
		キャリアデザインA キャリアデザインB
兼任	講師	藤井 誠一郎 <平成30年4月>
		政治学A 政治学B
兼任	講師	福島 道子 <平成30年4月>
		地域看護学概論 地域健康支援論 地域包括ケア概論 ※ 地域包括ケア方法論 ※ 地域包括ケア演習 家族看護学 ※
兼任	講師	手嶋 顕久 <平成31年4月>
		保健医療福祉制度論 社会福祉学
兼任	講師	柳本 茂久 <平成30年4月>
		人体の構造と機能Ⅰ 人体の構造と機能Ⅱ 疾病・治療学Ⅱ(急性期・臓器別疾患) 疾病・治療学Ⅴ(小児・性と生殖医療)
兼任	講師	渋谷 寛子 <平成30年4月>
		人間関係論
兼任	講師	熊谷(金岡) 順子 <平成31年4月>
		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ
兼任	講師	遠田 諭 <平成31年4月>
		臨床心理学概論 発達心理学
兼任	講師	金子 純一郎 <平成32年4月>
		地域リハビリテーション看護概論
兼任	講師	成田 信義 <平成31年4月>
		疾病・治療学Ⅰ(急性期・総論/運動・感覚器)
兼任	講師	亀澤 孝幸 <平成30年4月>
		芸術学A 芸術学B
兼任	講師	木川 裕 <平成30年4月>
		情報科学A 情報科学B
兼任	講師	黒柳 修一 <平成30年4月>
		教育学A 教育学B
兼任	講師	児島(鈴木) 由理 <平成30年4月>
		ドイツ語A ドイツ語B

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
兼任	講師	福井(小川) 庸子 <平成30年4月>
		キャリアデザインA キャリアデザインB
兼任	准教授	藤井 誠一郎 <平成30年4月>
		政治学A 政治学B
兼任	講師	福島 道子 <平成31年4月>
		地域健康支援論 地域包括ケア方法論 ※ 地域包括ケア演習 家族看護学 ※
兼任	講師	手嶋 顕久 <平成31年4月>
		保健医療福祉制度論 社会福祉学
兼任	講師	柳本 茂久 <平成30年4月>
		疾病・治療学Ⅱ(急性期・臓器別疾患) 疾病・治療学Ⅴ(小児・性と生殖医療)
兼任	講師	渋谷 寛子 <平成30年4月>
		人間関係論
兼任	講師	熊谷(金岡) 順子 <平成31年4月>
		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ
兼任	講師	遠田 諭 <平成31年4月>
		臨床心理学概論 発達心理学
兼任	講師	金子 純一郎 <平成32年4月>
		地域リハビリテーション看護概論
兼任	講師	成田 信義 <平成31年4月>
		人体の構造と機能Ⅰ 人体の構造と機能Ⅱ 疾病・治療学Ⅰ(急性期・総論/運動・感覚器)
兼任	講師	亀澤 孝幸 <平成30年4月>
		芸術学A 芸術学B
兼任	講師	木川 裕 <平成30年4月>
		情報科学A 情報科学B
兼任	講師	黒柳 修一 <平成30年4月>
		教育学A 教育学B
兼任	講師	
兼任	講師	斎野 岳郎 <平成30年4月>
		地理学A 地理学B

【認可時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	講師	佐藤 亮輔 <平成31年4月> 体育実技A 体育実技B
兼任	講師	高橋 明美 <平成30年4月> フランス語A フランス語B
兼任	講師	鄭 俊坤 <平成30年4月> コリア語A コリア語B
兼任	講師	得能 壽美 <平成30年4月> 地域・国家・民族の 考察A 地域・国家・民族の 考察B 女性・子ども・老人 への視点A 女性・子ども・老人 への視点B
兼任	講師	外山 英明 <平成31年4月> 体育実技A 体育実技B
兼任	講師	仁井田 典子 <平成30年4月> キャリアデザインA キャリアデザインB
兼任	講師	浜島 一成 <平成30年4月> 芸術学A 芸術学B
兼任	講師	松崎 かおり <平成30年4月> 民俗学A 民俗学B

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	講師	佐藤 亮輔 <平成31年4月> 体育実技A 体育実技B
兼任	講師	佐山 一 <平成30年4月> フランス語A フランス語B
兼任	講師	田中 美司 <平成30年4月> 考古学A 考古学B
兼任	講師	鄭 俊坤 <平成30年4月> コリア語A コリア語B
兼任	講師	得能 壽美 <平成30年4月> 地域・国家・民族の 考察A 地域・国家・民族の 考察B 女性・子ども・老人 への視点A 女性・子ども・老人 への視点B
兼任	講師	外山 英明 <平成31年4月> 体育実技A 体育実技B
兼任	講師	仁井田 典子 <平成30年4月> キャリアデザインA キャリアデザインB
兼任	講師	浜島 一成 <平成30年4月> 芸術学A 芸術学B
兼任	講師	松崎 かおり <平成30年4月> 民俗学A 民俗学B
兼任	講師	松村 健吾 <平成30年4月> 哲学A 哲学B
兼任	講師	村瀬(佐藤) 民子 <平成30年4月> ドイツ語A ドイツ語B
兼任	講師	藤縄 玲子 <平成30年4月> 生化学
兼任	講師	石井 和美 <平成30年4月> 人間と栄養

- (注) ・ 申請書又は届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 ・ 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
 その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字の赤字としてください。**
 ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 ・ 専任、兼任、兼任の順に記入してください。
 ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、結めてください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・教育課程の充実を図る理由のため、水野（今井）千奈津教授の就任を平成32年4月から平成30年4月に変更。
- ・鈴木秀樹助教就任辞退の理由により、須佐公子准教授が「基盤看護学実習Ⅰ」、「生活支援技術論Ⅰ」、「生活支援技術論Ⅱ」及び「看護方法論」を担当。平成29年12月AC教員審査済み。
- ・甲賀ひとみ講師の氏名変更の理由のため、村田（甲賀）ひとみに変更。
- ・大城聡兼担教授の担当科目変更の理由により、「生化学」を藤縄玲子兼任講師に変更。
- ・宮瀧交二兼担教授の担当科目一部変更の理由により、「考古学A」及び「考古学B」を田中英司兼任講師に変更。
- ・北澤恒人兼担教授の担当科目一部変更の理由により、「哲学A」及び「哲学B」を松村健吾兼任講師に変更。
- ・高尾謙史兼担教授の担当科目変更の理由により、「文学A」及び「文学B」を木村竜太兼担講師に変更。
- ・田中達也兼担教授の担当科目一部変更の理由により、「地理学A」及び「地理学B」を齋野岳郎兼任講師に変更。
- ・内藤二郎兼担教授の担当科目変更の理由により、「現代社会の諸問題A」及び「現代社会の諸問題B」を野瀬元子兼担准教授に変更。
- ・中垣恒太郎兼担教授就任辞退の理由により、「異文化・世界にふれるA」、「異文化・世界にふれるB」、「自己・人間をみつめるA」及び「自己・人間をみつめるB」を津曲真一兼担准教授に変更し、「芸術学A」及び「芸術学B」は、他に3名の担当教員がいるため後任補充は行わない。
- ・武藤慎一兼担教授の担当科目変更の理由により、「宗教学A」及び「宗教学B」を津曲真一兼担准教授に変更。
- ・蕪木智子兼担准教授の担当科目変更の理由により、「人間と栄養」を石井和美兼任講師に変更。
- ・工藤保子兼担准教授の担当科目変更の理由により、「体育実技A」及び「体育実技B」を勝侯康之兼担准教授に変更。
- ・杉田明宏兼担准教授の身分昇格の理由により、職名を「教授」に変更。
- ・松崎友世兼担准教授の身分昇格の理由により、職名を「教授」に変更。
- ・高田未里兼担講師の身分昇格の理由により、職名を「准教授」に変更。
- ・藤井誠一郎兼担講師の身分昇格の理由により、職名を「准教授」に変更。
- ・福島道子兼任講師の就任年度を平成30年4月から平成31年4月に変更し、担当科目を変更した理由により、「地域看護学概論」及び「地域包括ケア概論」を除外。なお当該科目は共同科目であり「可」を受けた専任教員が担当。
- ・柳本茂久兼任講師の担当科目変更の理由により「人体の構造と機能Ⅰ」及び「人体の構造と機能Ⅱ」を成田信義兼任講師に変更。
- ・児島（鈴木）由理兼任講師の担当科目変更の理由により、「ドイツ語A」及び「ドイツ語B」を村瀬（佐藤）民子兼任講師に変更。
- ・高橋明美兼任講師の担当科目変更の理由により、「フランス語A」及び「フランス語B」を佐山一兼任講師に変更。

- (注) 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を定員する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担担することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - ・ 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
12 名	6 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)
7	6	7	7	27	6	5	4	4	19	7	6	7	6	26
(6)	(5)	(4)	(6)	(21)						[0]	[0]	[0]	[-1]	[-1]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、「現在（報告書提出時）の状況」に記入した数字に、教員審査を要済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告書提出時（上 記（B））の教員 のうち、定年を延 長して採用してい る教員数	完成年度時（上記 （C））の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
70(※1) 65(※2)	2	2
歳	名	名

(※1) …平成23年3月31日までに採用された教員
 (※2) …平成23年4月1日以降に採用された教員

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成30年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告書提出時）の完成年度時の計画(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{26}{27} = \boxed{96.29} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告書提出時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告書提出時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告書提出時）の状況(B)}} = \frac{2}{19} = \boxed{10.52} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
1	助教	鈴木 秀樹	必修	基礎ゼミナール	①	一身上の都合のため就任辞退（30）			
			必修	コモンスキル ※	①				
			必修	生活支援技術論Ⅰ	①				
			必修	生活支援技術論Ⅱ	①				
			必修	医療支援技術論Ⅰ	①				
			必修	医療支援技術論Ⅱ	①				
			必修	看護方法論 ※	①				
			必修	看護コミュニケーション論 ※	①				
			必修	基盤看護学実習Ⅰ	①				
			必修	基盤看護学実習Ⅱ	①				
			必修	地域包括ケア実習	①				
			必修	統合実習	①				
			必修	看護実践能力強化演習	①				
必修	看護研究Ⅱ	①							
合計（D）				後任補充状況の集計（E）					
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）			
1	人	必修	14 科目	必修	6 科目	必修	0 科目	必修	8 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	14 科目	計	6 科目	計	0 科目	計	8 科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことで、就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
1		該当なし					
2							
合計（F）				後任補充状況の集計（G）			
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)			後任補充状況の集計 (E) + (G)					
辞任等した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
1 人	必修	14 科目	必修	6 科目	必修	0 科目	必修	8 科目
	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
	計	14 科目	計	6 科目	計	0 科目	計	8 科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{1}{27} = \boxed{3.7} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
1		該当なし							
2									
合計					後任補充状況の集計				
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
人	必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目	
	選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目	
	自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目	
	計	科目	計	科目	計	科目	計	科目	

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員** について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および () 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

鈴木秀樹助教の後任については、専任補充にむけて教員募集を予定している。
 1年次開講科目の「基礎ゼミナール」「コモンスキル」は共同担当であり、他の専任教員で担当できるため学生の履修への支障はない。
 「生活支援技術論Ⅰ・Ⅱ」「基礎看護学実習Ⅰ」「看護方法論」については、専任の須佐公子准教授が担当することとし、教育の質を担保する (H29年12月AC教員審査済み)。
 H30年度のシラバスは既に変更後の内容で作成して学生に周知している。

- (注) ・ 上記 (3) の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (30年4月)	該当なし		

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、**当該大学に付された意見を全て記入**するとともに、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行途中であれば「未履行」、履行済みであれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

7 その他全般的事項

<スポーツ・健康科学部 看護学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>①施設、設備等の整備計画</p> <p>東松山キャンパス2号館増築棟については平成30年11月から使用開始、平成31年4月供用開始とする予定。</p> <p>②入学者選抜方法</p> <p>(1)入学者選抜体制</p> <p>学生募集と入学者選抜に関して全学的に検討する組織として、学長を委員長とする入学試験委員会が設置されており、責任主体・権限等も明確化され、公正かつ適切に実施し、定員管理も慎重に行っている。</p> <p>(2)一般入試</p> <p>①全学部統一入試及び②一般入試(3教科)を実施する。</p>	<p>設計変更に伴う工期変更により使用開始を平成31年3月中旬に変更。ただし供用開始は平成31年4月とし、教育計画への影響はない。</p> <p>入学試験委員会を廃止し、平成30年4月より入学センターを新たに設置した。入学センターの事業として、入学試験委員会で審議されてきた事項の業務に加え、合格者判定基準等の策定、入学試験の結果の分析及び検証、入学者の追跡調査を行う。</p> <p>新たな一般入試方式として、2019年入試より「英語外部試験活用総合評価入試」を導入する。</p>

(注)・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策(FD・SD活動含む)

<p>全学のFD活動については、授業の内容及び方法の改善を図るための全学的な組織として、大東文化大学ファカルティ・ディベロップメント(FD)委員会(以下、「全学FD委員会」とする。)を設置している。また、各学部内にもFD委員会を設置またはFD担当教員が配置されており、各学部等の内容に即した独自のFD活動を行うとともに、各学部のFD委員会委員(またはFD担当委員)が全学FD委員会委員の構成員となることによって、全学のFD活動と学部等のFD活動が関連性をもって活動できる体制をとっている。以下の①～②に、全学FD委員会の平成29年度活動実績について報告する。</p> <p>全学のSD活動については、毎年度学園全体の教員、事務職員を対象としたコンプライアンスに関する研修(個人情報保護、ハラスメント、研究倫理等)や、事務職員を対象とした人事研修を行っている。</p> <p>本学園では「大東文化大学FD・SD基本方針」(添付資料①)を定め、FD、SD活動に関する大学としての指針について明確化した。本年度も本方針に基づき、コンプライアンス研修や事務職員人事研修を継続するとともに、教育研究活動等の運営に関する研修や、外部研修を含めた実効性のある育成型研修も含め、実施していく予定である。</p> <p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況(全学FD活動に関するもの)</p> <p>○大東文化大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程(添付資料②)</p> <p>b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む)</p> <p>・大東文化大学ファカルティ・ディベロップメント委員会</p> <p>(参加状況)学長が副学長の中から指名した者1名、各学部が選出する者 各1名、各研究科が選出する者 各1名、学長が指名する者 若干名</p> <p>【平成29年度】…平成29年5月2日(第1回)、平成29年6月27日(第2回)、平成29年9月27日(第3回)、平成30年2月21日(第4回)</p> <p>※平成30年度は平成30年4月27日に第1回委員会を開催。以降、数回の委員会開催を予定している。</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>(1)本学の教育システムに対するファカルティ・ディベロップメントの視点からの分析及び提言、並びに教育効果に関する諸調査の企画、実施及び分析</p> <p>(2)ファカルティ・ディベロップメントに関連する学内外の情報収集とその普及等の広報啓発活動</p> <p>(3)ファカルティ・ディベロップメントに関する講演会、研究会その他の企画及び開催</p> <p>(4)「学生による授業評価」の策定及び実施、授業評価結果の分析、並びに授業評価結果報告書の作成及び公表</p> <p>(5)授業評価結果の有効活用その他授業改善に関する取り組みの支援</p>

② 実施状況

a 実施内容

- ・「学生による授業評価アンケート」（報告書の作成等を含む）
- ・「卒業生アンケート」
- ・「大学院修了時アンケート」
- ・FD研究会の開催（全2回）

b 実施方法

- ・「学生による授業評価アンケート」
…全教員1～2科目を対象とし、Web方式で実施。実施後は報告書を作成する。
- ・「卒業生アンケート」、「大学院修了時アンケート」…卒業生及び修了生全員を対象にWeb方式で実施。
- ・FD研究会の開催（全2回）
…本学板橋校舎と東松山校舎とを遠隔会議システムを利用して開催した。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・「学生による授業評価アンケート」…平成29年12月4日～23日において、専任・非常勤教員計908名が実施。
- ・「卒業生アンケート」、「大学院修了時アンケート」…平成30年3月5日～3月31日において実施。
- ・FD研究会の開催（全2回）…教員及び事務職員が参加。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

全学のFD活動を担う大東文化大学ファカルティ・ディベロップメント委員会において、下記の通り、授業改善のための取り組みを行った。

平成12年度より実施している「学生による授業評価アンケート」は、従前（平成28年度まで）のマークシート方式に替えて、平成29年度はWeb方式アンケートを導入実施した。Web方式アンケートの実施については、実施に係る周知が不十分であったこと、学生の回答率が低下したなどの幾つかの課題を残したが、学生の利便性や教員がアンケート結果を即閲覧できることで授業改善に役立てることできるなど、アンケートの可能性を広げた。これらの取り組みは、同委員会が全学的なアンケートの集計結果と報告書を作成し、公表する予定である。

「FD研究会」は全2回開催し、各部局のFD意識と知識の向上に努めた。

「卒業生アンケート」及び「大学院修了時アンケート」の結果については、報告書作成し、学内公開する予定である。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

平成29年度については、上記②において記載済み。平成30年度は、6月25日～7月24日において大学全体のアンケートを実施する予定。

b 教員や学生への公開状況、方法等

全学FD委員会の責任において、本学ホームページへの掲載等を含め、必要に応じて行う。

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

<p>① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見 開設前に一部教員の就任辞退があったが、ほぼ予定通りに設置の趣旨・目的に従った体制・設備で開設することができた。</p> <p>② 自己点検・評価報告書</p> <p>a 公表（予定）時期 毎年度の自己点検・評価活動として、「評価専門委員会報告書」「外部評価委員会報告書」及び「自己点検・評価シート」を年度末（3月頃）に作成し、公表している。</p> <p>b 公表方法 ・大学ホームページ上にて公開。（平成29年度については、平成30年3月末に公開済み。）</p> <p>③ 認証評価を受ける計画 平成28年度に評価機関（公営財団法人大学基準協会）による認証評価を受審し、同協会が定める大学基準に適合しているとの評価を受けた。次回は、2021年度に認証評価を受審する予定である。</p>

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

<p>○ 設置計画履行状況報告書</p> <p>a ホームページに公表（予定）の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)</p> <p>b 公表（予定）有の場合の公表（予定）時期 (平成30年5月31日)</p>

(注) ・ 「a ホームページに公表（予定）有無」には、5月1日時点で公表している場合、もしくは、今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。
・ 「b 公表（予定）有の場合の公表（予定）時期」には、「a ホームページに公表（予定）有無」で「有」にマルを記入した場合のみ、時期を記入してください。

【添付資料①】

(平成 28 年 12 月 19 日制定)

大東文化大学 F D ・ S D 基本方針

【基本方針】

大学運営が高度化・複雑化していくなか、教育研究活動の質の向上及び教学支援、学生支援、管理運営等の諸課題に対応し大学改革を推進していくためには、教職員の能力開発と資質の向上が欠かせない。

本学は、「アジアから世界へ—多文化共生を目指す新しい価値の不断の創造」という大学の理念に沿って教育研究上の目的を達成し、社会の要請に応える大学づくりと大学運営上の諸課題に対応できる教職員を養成するため、FD (ファカルティ・ディベロップメント) 及びSD (スタッフ・ディベロップメント) の活動を積極的に推進する。FD とSD は、企画立案を担うそれぞれの運営主体の方針に基づき、計画性と継続性のある活動として、教職員全体の組織的な機能充実に向け相互補完的に連携をはかりつつ取り組むものとする。

1. 大学は、授業内容及び方法の改善を図り優れた教育システムの提言と構築を実現するため、「学生による授業評価」と授業改善をはじめとする組織的なFD活動を推進する。
2. 各学部・研究科は、各々の教育の特徴を活かした授業改善及び教育の質向上を目指し、FD活動を推進する。
3. 大学は、教学支援、学生支援、管理運営等の各分野において、大学及び高等教育政策に関する知識と理解のもと企画立案から課題解決に至るまで、自らの力で改革を推進することができる教育職員および事務職員を育成するため、SD活動を推進する。
4. 本学の教職員は、教職協働の考え方に基づき、FD活動とSD活動に積極的に参画する。
5. 教育職員は、大学及び各学部・研究科が実施するFD活動に積極的に参画し、自己の能力開発及び教育研究の質向上に努める。また、大学ガバナンス、コンプライアンス、管理運営の観点から、大学が実施するSD活動に積極的に参加する。
6. 事務職員は、大学が実施するSD活動に積極的に参画し、高等教育政策に関する幅広い知識の習得と自己のキャリアに応じた専門性の高度化に努める。
7. 大学のFD活動は、大東文化大学FD委員会が推進する。
8. 各学部・研究科のFD活動は、大学が推進するFD活動との連携をはかりつつ、それぞれの学部研究科において推進する。
9. 事務職員を主な対象としたSD活動は、総務部人事課及び人事委員会が推進する。
10. 教育職員を主な対象としたSD活動は、学長が推進する。
11. SD活動の内コンプライアンスに関する取り組みは、コンプライアンス推進会議が推進する。

【添付資料②】

○大東文化大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程 (平成18年5月15日制定)

改正 平成21年6月15日
平成27年3月18日

平成22年2月22日

(目的)

第1条 この規程は、自己点検・評価全学委員会及び学部・大学院と連携をとりつつ、大東文化大学における教育内容及び技法の質の向上を目指すことを目的とする。この目的達成のため、ファカルティ・ディベロップメント委員会 (以下「FD委員会」という。)を設置する。

(任務)

第2条 FD委員会は、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる事項を審議検討し、実施することを任務とする。

- (1) 本学の教育システムに対するファカルティ・ディベロップメントの視点からの分析及び提言、並びに教育効果に関する諸調査の企画、実施及び分析
- (2) ファカルティ・ディベロップメントに関連する学内外の情報収集とその普及等の広報啓発活動
- (3) ファカルティ・ディベロップメントに関する講演会、研究会その他の企画及び開催
- (4) 「学生による授業評価」の策定及び実施、授業評価結果の分析、並びに授業評価結果報告書の作成及び公表
- (5) 授業評価結果の有効活用その他授業改善に関する取り組みの支援
- (6) その他、FD委員会が必要と認めた事項

(組織)

第3条 FD委員会は、次の委員をもつて構成する。

- (1) 学長又は学長が副学長の中から指名した者1名
 - (2) 各学部が選出する者 各1名
 - (3) 各研究科が選出する者 各1名
 - (4) 学長が指名する者 若干名
- 2 FD委員会の委員長は、前項第1号に定める者とする。
- 3 FD委員会に副委員長を1名ないし2名置く。副委員長は委員会の同意を得て委員長が指名する。
- 4 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故があつた場合は、委員長の職務を代行する。
- 5 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 6 委員が欠けたときの後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 7 FD委員会は必要に応じて委員以外の者に同委員会への出席及び発言を求めることができる。

(運営)

第4条 委員長はFD委員会を招集し、その議長となる。

- 2 FD委員会は、委員の過半数の出席がなければ、議事を開き、議決することができない。
- 3 FD委員会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(専門部会)

第5条 FD委員会は、第2条の任務を遂行するにあたり、必要に応じて専門部会を設けることができる。

- 2 専門部会には、委員以外の協力委員を置くことができる。

(事務局)

第6条 FD委員会に関する事務は、学務部学務課が担当する。

(規程の改廃)

第7条 この規程の改廃は、学長がこれを行う。

附 則

この規程は、平成18年5月15日から施行する。

附 則 (平成21年6月15日)

本規程は、平成21年6月15日から施行する。

附 則 (平成22年2月22日)

- 1 この改正規程は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 この改正規程の施行に伴い、大東文化大学学生による授業評価実施委員会規程は、平成22年3月31日をもって廃止する。

附 則 (平成27年3月18日)

この規程は、平成27年4月1日より施行する。